

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	0191600014		
法人名	有限会社 グループホーム・和		
事業所名	グループホーム・あかり		
所在地	松山郡江差町字田沢町4 9 2番地3 (電話) 0139-54-5753		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】 (20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算	5.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	~	1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000 円 暖房費(10-4月) 5,000円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 含む 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (19年5 月 11 日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	5	要介護2	2		
要介護3	1	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 76歳	最低	63歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道立江差病院 佐々木病院 カモメデンタルクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム・あかりは、江差町の北部で山と海が近く自然豊かなところに位置している。建物は、ヒノキの木目を生かした内装と手づくりのテーブル、椅子が落ち着いた雰囲気を醸し出しており、明るく開放的な造りである。温泉をひいている風呂には、地域の老人クラブの方々が入浴に訪れて交流をしている。運営母体のグループホーム・なごみと隣接していて、日常的に質の向上に研鑽を重ねており、管理者と職員は、その人らしくあたりまえの暮らしができるよう理念に添って支援している。利用者は、ゆったりと自分のペースで毎日の生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設して約1年になるホームで、外部評価は今回が初回である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全職員がミーティングや全体会議で調査項目ごとに検討し意見を出しあい作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2回実施しており、参加者の意見交換も活発である。今回の外部評価の結果も議題にする予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は顔馴染みの方が多いので、意見や苦情を表現しづらいのではないかと管理者は考えて、来訪時に三者会話時間を設けて、話しやすい雰囲気作りに努力しているが、意見や苦情は今のところはない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの温泉をひいている風呂に地域の老人クラブの方々を訪れたり、保育園児の歌や踊りのお礼に利用者がぞうきんを縫ってお返ししたり、小学生に踊り用の笠の作り方を教わり一緒に踊ったり、地域交流事業に利用者が参加するなど、交流は盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念は母体のホーム・なごみと同様であるが、介護理念はホーム独自に作成したものを柱において全職員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい所に掲示し、毎朝のミーティングの中で、全職員が確認し共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	温泉の入浴に老人クラブの方々を送迎付きでお誘いしたり、保育園児の踊りや歌のお礼に利用者がぞうきを縫ってお返ししたり、小学生に踊り用の小物作りを教わって一緒に踊ったり等、町内会交流事業に利用者が参加した様子は写真集で確認した。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価、外部評価であるが、調査項目ごとに全体会議の中で意見を聞いて作成し、全職員が評価の意義を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設して1年未満であるが2回運営推進会議を実施している。参加者の意見交換も活発であり、今回の外部評価の結果も議題にする予定である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の包括支援センターと常に連携をとり、利用者の現状やサービスの取り組みを伝えて質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の状況を報告したり、金銭管理の確認をしてもらうなどし、サインをいただいている。遠方の家族には、月1度定期的にホーム便りや、金銭出納帳、領収書のコピーを郵送し、職員の異動がある時は合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	顔馴染みの家族が多いので、意見、苦情をだせないのではと、管理者が配慮して訪問時に三者会話時間をつくり気軽に話し合える雰囲気作りをしているが、運営に反映できる意見、苦情はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の退職者はいないが、運営者は職員の異動による利用者の影響は理解しており常に努力をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は資格取得の研修会やグループホーム協議会研修会などに参加し、全体会議の中で報告し、記録に残して、自由に閲覧できるように取り組んでいる。ホーム内では精神科医師を招いて地区の方々や家族の参加による講習会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者との交流や連携は不可欠であることは認識しているが、檜山管内にグループホーム協議会がなく、遠方に長時間をかけて参加しなければならない現状に苦慮している。	○	檜山管内の同業者との交流を呼びかけた経緯はあるが、実現に至らなかった。地域全体のサービス水準の向上につなげるために、努力されることを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらったり、自宅や病院へ出向き、顔馴染みになることから始めて安定するのを見極めてからサービスを利用してもらうなど工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	回想法を利用して本人が出来ることを把握し、一緒に喜びを感じ、昔の知恵を学んだりしながら、暮らしの中で共に支えあう関係づくりに留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話や表情から利用者の思いや意向を把握し、本人の希望に添ったケアを実施している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員の意見を聞いて、一部センター方式を取り入れた介護計画を作成している。介護計画作成担当者は、本人、家族と十分話し合い、意見を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事例検討をきめ細かく確認し、1ヶ月ごとに見直しをしているが異状がある時には、家族と相談して、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援、外出、外泊の支援を家族の要望で行っている。遠方の家族と本人の意向で、居室から仏壇を自宅に移して法事を行うなど柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の受診可能なことは入居時に本人と家族に説明しており、希望する医療機関で受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の近くに道立医療機関があり、終末期の対応に理解を示す医師がいても転勤が激しく、運営者は家族の意向を確認しても、対応方針を図ることができずにいる。	○	運営者は、僻地医療の格差に苦慮しているが、日常の健康管理や急変時の対応を家族と十分に話し合い方針の統一を図ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に本人と家族に秘密保持の説明をしているが、朝のミーティングの中でも全職員で再確認している。個人の記録や情報などは、所定の場所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事などの時間に一定のルールはあるが本人のペースにあわせ強制はしていない。利用者の表情や言葉で何をしたいか把握し、希望に添って臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋の皮むき、お茶の用意など一人ひとりが出発ることに感謝の言葉を伝え、職員と一緒に楽しく食事の準備や、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	町と契約して温泉を入れている浴室と一般的な浴室があり、利用者の希望で自由に選択し入浴を楽しむ支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴を把握し、山の好きな方には山菜、野草を摘みに、海の好きな方は浜辺で流木を拾って工作用に利用するなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近くに足湯温泉があり、散歩の途中で利用したり、季節に添ってお花見やドライブなどの支援をしていることは、写真集で確認する。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵は掛けていないが、夜間は防犯のために施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルを作成し、近所に協力を依頼しているが、避難訓練は実現していない。	○	消防署に依頼して、4月に訓練をする予定であるが実施されることを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食欲不振、残量などを見極めて、バイタルチェック表に克明に記録している。栄養のバランスやカロリーについては保健所栄養士の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で、ヒノキの木目をいかしたテーブルや椅子があり、広くて明るく開放的で、居心地良く過ごせるように工夫してある。ホームの周りには家庭菜園の畑があり、夏には、草花や野菜を収穫しているのを、写真集で確認する。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は自宅から使いなれた家具や生活用品、装飾品を持ち込み、個々に配置を考えて居心地の良い生活の場になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。